

国連核兵器禁止条約交渉会議 & ニューヨーク行動報告集会



各国の発言をふまえて当初案から大きく変更したことや、軍縮教育の重要性を強調したことを報告。新婦人の大平さんは、新婦人がつくっている「平和基金」で世界大会に参加した女性たちに現地で再会をはたしたことや、「女性行進」など女性パワーの凄さ、また「木の葉」の英語



版をホワイト議長・中満上級代表に贈呈したことなどを報告しました。弘中さんはこの会議で国と市民社会の「近さ」を実感したことやNGOフォーラムで他国の青年と接し、いつでも気軽に政治の話ができること、それにくらべて政治の話ができにくい日本の青年が置かれている現状を変えなければと思ったことなどを報告しました。続いて古田県原水協事務局長が、2017年世界大会成功へ向けて「ヒバクシャ国際署名」を広げ、大会パンフで学習し、募金活動などで大会参加を進めよう、など当面の方針を提起しました。最後に大越県被団協が、条約を実現させた署名など運動の到達点に確信をもち、禁止条約から核兵器廃絶へ運動を進めよう、と閉会挨拶し終了しました。

県原水協と県被団協、新婦人県本部、民青県委員会は13日（木）夜、平和ビルで国連核兵器禁止条約交渉会議とNY行動に参加した3人の報告集会を開催、62人が参加しました。

最初に澤田県原水協代表理事（新婦人県本部会長）が条約の成立をともに喜びましょう、と開会挨拶。高橋代表理事が戦後すぐの困難をきわめた原水爆禁止運動から、今日の到達点までに触れ、運動に確信をもとうと報告しました。続いて3人が報告し、

被団協の大中さんは、条約前文が



各報告者の発言をふまえて当初案から大きく変更したことや、軍縮教育の重要性を強調したことを報告。新婦人の大平さんは、新婦人がつくっている「平和基金」で世界大会に参加した女性たちに現地で再会をはたしたことや、「女性行進」など女性パワーの凄さ、また「木の葉」の英語版をホワイト議長・中満上級代表に贈呈したことなどを報告しました。弘中さんはこの会議で国と市民社会の「近さ」を実感したことやNGOフォーラムで他国の青年と接し、いつでも気軽に政治の話ができること、それにくらべて政治の話ができにくい日本の青年が置かれている現状を変えなければと思ったことなどを報告しました。続いて古田県原水協事務局長が、2017年世界大会成功へ向けて「ヒバクシャ国際署名」を広げ、大会パンフで学習し、募金活動などで大会参加を進めよう、など当面の方針を提起しました。最後に大越県被団協が、条約を実現させた署名など運動の到達点に確信をもち、禁止条約から核兵器廃絶へ運動を進めよう、と閉会挨拶し終了しました。



